エルプ・フィルハーモニーの１月開演を機に
ハーフェンシティの観光振興に乗り出したハンブルグ（ドイツ）

会員 山田恒一郎／文・写真

煉瓦倉庫の上に波をイメージしたガラス構造建築のエルプ・フィルハーモニー。コンサート・ホールのインテリアは音響設計家豊田泰久氏設計。

大コンサート・ホール。どの席にいても同じように演奏が聴ける配置と音響効果が考案された。座席数 2100。

ホテル、高級アパート等が建ち、埠頭に観光船が居並ぶ。

去る３月 24 ～ 27 日にハンブルグ州資本の公営会社メディア・リレーションズ（Media Relations）とハンブルグ・コンベンション・ビューロー（Hamburg Convention Bureau）が、アジアのメディア向けに主催したエルプ・フィルハーモニー・プレスツアーに参加した。日本からメディア関係２団体、中国から同じく４団体の編集者、記者が集まり、ハンブルグの観光振興具体策についてヒアリングと現地視察を行ってきた。

世界有数の貿易港であるハンブルグに超大型コンテナ船が頻繁に来航するようになって、水深の浅いエルベ川の川筋に煉瓦倉庫が軒を連ねる従来埠頭は、エルベの河口に新設された大水深岸壁に港としての役割を譲り、長い間、放置されていた。その従来埠頭に新しい生命を吹き込み、21 世紀のハンブルグ市の心臓部を創造しようとする「ハーフェンシティ総合開発計画」が今世紀初めに持ち上がった。このハンブルグの再開発計画は、まだ 50％程度の開発段階にあるが、計画全体の核に当たる開発空間が、ハーフェンシティ（英語では、ハーバーシティ）の最先端部に建つ高さ 110 mの「エルプ・フィルハーモニー」のグランド・オープンによって真に活性化し、都市の賑わいを促すものになったと言えよう。エルプ・フィルハーモニーは、著名な日本人音響設計家、豊田泰久氏がホールの壁面を含むインテリアを設計したことでも名高い。

かつて、コーヒー、茶、香料、タバコなどを貯蔵した煉瓦倉庫は、煉瓦構造を残しながら内装の改築を経て、先端産業の大手民間会社のオフィスとなる一方、メインの水路側に鉄骨とガラスによって新たに建設された高級アパートメントは、すでにほとんどが入居済みとなった。狭い水路に沿って建つ歴史的煉瓦倉庫群は、2015 年に世界遺産に登録されている。ハーフェンシティには、教育施設も進出し、ミュージアムも置かれ、ホテルや飲食店を含む商業施設の進出が同時に進む。陳腐化した広大な老朽施設に成り替わって、まさに現代を象徴する美しい新市街が出現することになった。中でも、コンサート・ホールの優れた音響効果に加え、コンサート・ホールを包含するガラス建築のユニークさが人気を集める「エルプ・フィルハーモニー」は、地元ハンブルグ人に留まらず、世界中のツーリストの心を掴んで離さない。

ハンブルグは、多くの音楽家ゆかりの地でもある。クラシック音楽では日本人におなじみのブラームス、メンデルスゾーンが生まれ育ち、カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ（ヨハン・セバスティアン・バッハの次男）、グスタフ・マーラーなどが長く音楽活動を行い、ロックンロールの大御所、ビートルズが結団し、初期のヒット曲を次々に生んだ地である。今後、欧州から離れたアジアからもツーリストの一層の増加が期待される。

2015 年に世界遺産に登録されたハンブルグの歴史的倉庫群

ツーリストで賑わうエルプ・フィルハーモニーの展望デッキ

ブラームスが洗礼を受けた聖ミヒャエル教会

ブラームスが住んだアパートのあった建物の入り口

旧市街の観光の一番人気はアルスター湖に接する市庁舎前広場

無名に近かったビートルズが演奏していたカイザーケラー

ビートルズの演奏が連日連夜喝采を浴びたスタークラブのあった場所